

No. 57

September.
20252016年
朝日がん大賞
受賞2005年
保健文化賞
受賞

NEWSLETTER

第34回学術集会
開催報告

ITO Hidemi

伊藤 秀美

愛知県がんセンター
JACR 理事（教育研修委員長）

日本がん登録協議会第34回学術集会は、2025年6月5日(木)・6日(金)の2日間にわたり、愛知県名古屋市のウインクあいちにて開催されました。参加登録総数は現地参加者ならびにオンデマンド配信視聴者を合わせて383名にのぼり、実務者研修会には274名、学術集会には364名の方々にご参加いただきました。全国から多数のがん登録関係者の皆様に名古屋にお越しいただき、対面ならではの活発な情報共有と意見交換が行えたこと、心より御礼申し上げます。

今回の学術集会は、全国がん登録の施行から10年という節目にあたり、「がん登録に基づく予防・疫学研究の深化と拡張」をテーマに掲げました。がん登録情報の利活用によるがん予防や医療政策の発展に加え、疫学研究の紹介や国際的な展開の現状と課題など、さまざまな視点から議論が交わされました。

学術委員会企画のシンポジウムでは、現在進行中の政策課題である「医療の集約化」を取り上げ、関連する立場から演者をお招きしました。本企画は、学術委員会の皆様による熱意と丁寧なご準備により実現したものであり、各演者からは非常に踏み込んだご発表をいただきました。座長、演者、参加者の間で交わされた活発な議論を通じて、がん登録情報が「医療の集約化」の中で果たしうる役割について、改めて考える貴重な機会となりました。

学術集会企画のシンポジウムでは、大会長がこれまで取り組んできたがん登録情報を活用した疫学研究の実績を踏まえ、記述疫学にとどまらない研究の広がりや今後の展望について、国内の第一人者にご講演いただきました。それぞれの演者からは、国際共同研究の経験とともに、がん登録情報の国際的な活用における課題や展望も共有され、がん登録情報を基盤とした研究のさらなる発展可能性が示されました。

実務者研修会では、院内がん登録および全国がん登録のデータを活用した解析に焦点を当て、実務者や行政担当者に役立つ知識や手法について、実践的な講義が行われました。多くの参加者が熱心に耳を傾け、解析力向上への関心の高さがうかがえました。

毎年好評の情報交換会「実務でGo!」では、現場で直面している課題や工夫について自由に意見を交わす時間が設けられ、所属や経験年数の垣根を越えて、多くの実務者同士のつながりが生まれました。参加者からは、「他施設の実践から多くのヒントを得られた」「同じ悩みを共有できて励みになった」といった声が寄せられ、今後の業務改善やモチベーション向上にもつながる場となりました。

一般演題セッションでは、全国から59題(口演・ポスター)の演題登録があり、がん登録情報を活用した疫学研究や院内・全国がん登録室の活動や取り組みなど、幅広いテーマが取り上げられました。

あわせて、日本がん登録協議会の委員会活動に直結するセッションも企画されました。国際交流委員会のセッションでは、日本から提供された大規模国際共同研究CONCORD-3のデータを用いて、部位別に詳細な生存率評価を行う最新の活動報告がなされました。日本のがん登録データが国際的にも信頼され、実際に活用されていることを再認識するとともに、がん対策・医療の質を客観的に評価する貴重な機会となりました。J-CIP委員会のセッションでは、地域のがん対策におけるがん登録データの活用について、がん患者さんを交えた多角的な議論が展開され、活動の社会実装やその社会的意義を改めて認識する機会となりました。

また、情報交換会では113名もの皆様にご参加いただきました。都市部開催の利点を活かし、会場はアクセスの良い場所に設定し、洗練された雰囲気の中で日頃なかなか言葉を交わせない他施設の方々との交流が深まりました。後半にはビンゴ大会も行われ、終始和やかで笑顔あふれるひとときとなりました。情報交換会での懇親を通じて、がん登録をめぐる実務や研究のつながりが、より一層広がる機会となりました。

本学術集会の開催にあたっては、多くの関係者のご支援とご協力のもと、無事に実施することができました。改めて、参加者の皆様、演者・座長の皆様、プログラム委員会の皆様や事務局のスタッフに心より感謝申し上げます。

本学術集会が、皆様の実務や研究に少しでもお役に立てる機会となっていれば幸いです。引き続き、がん登録に関わる皆様のご活躍を心より応援しております。